

# わがまち再発見!!

## シリーズ 文化財の紹介

対馬市教育委員会 文化財課  
☎0920(54)2341

### 『対馬を渡った使節団』

古来より多くの外交使節団が対馬を経由し大陸へ渡りました。ここでは全て紹介できませんがその一部をご紹介します。

#### 一、遣隋使

日本から大陸に渡った7世紀最初の外交使節団は推古天皇15年(607)の第1回遣隋使です。この時の正使は有名な小野妹子です。聖徳太子が作成した国書を隋の煬帝に伝え、帰朝の際に隋の裴世清を伴い帰国しました。その経路は隋↓百濟↓(中略)↓都斯麻(対馬)↓一支(杵岐)↓竹斯(筑紫)↓(中略)↓畿内と『隋書』に記されています。計6回派遣され、往復とも同経路と考えられています。

#### 二、遣唐使

舒明天皇2年(630)の第1回派遣から寛平6年(894)の264年間に18回遣使が任命されましたが、そのうち3度は中止になり、遭難、漂着などのため長安の都に到着したのは13回です。最後の遣唐使に任命された菅原道真は航路の危険と唐の衰退・治安の乱れなどを理由に中止となりました。航路は7世

紀には2隻で杵岐・対馬を経て朝鮮半島西海岸を経由し山東半島に上陸する北路、8世紀以降は4隻で五島列島を最後の寄港地に東シナ海を横断する南路が取られるようになりました。1隻には120〜150人が乗り組み、多い時は600人に及んだこともありました。

#### 三、遣新羅使

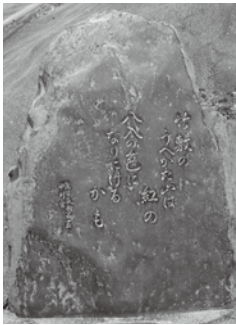
外交使節の派遣が一番多かった国は新羅です。現在の韓国東南部に興り、676年に朝鮮半島を統一しました。欽明天皇32年(571)以後、元慶6年(882)に至る312年間に45回、新羅へ使節を派遣しています。天智天皇2年(663)に白村江の海戦で唐・新羅に敗れましたが、国交は急速に回復し、金田城築城(天智天皇6年)の翌年から使節を派遣しています。『万葉集』巻15には天平8年(736)の6月に難波を出航した大使阿倍継麻呂一行が詠んだ歌が145首残っています。対馬では風待ちをして停泊していた時に詠まれた歌があり、浅茅浦(湾)、浅茅山(大山嶽)竹敷浦など名が出てきます。また対馬の娘子、玉槻と使節との心を交わ

した歌も残っています。

各使節団は対馬のどの辺りを通り大陸へまたは杵岐へ渡ったのか史料は残っていませんが、現在の小船越を通過したとの説が有力です。杵岐より対馬への航路は浅茅山を目印とし小船越の東海岸に船を着け、人と荷物を西海岸の入江まで移動し船を乗り換えたと考えられています。

このように多くの外交使節団が対馬より、または大陸から対馬を経由して目的地へと海を渡りました。今では安全に航海できますが往時は命がけでした。船が難破し無事に任務を果たせず、目的地に到着できなかつたことも多かつたようです。時には古代の外交使節団の労苦を思い、浅茅湾を眺めてみてはいかがでしょうか。

引用・参考文献  
長崎県史(古代・中世編)1980  
岩波日本史辞典1999



万葉歌碑・金比羅神社

### つしま図書館情報

つしま図書館 ☎0920(52)3900

●長崎っ子の心をつみつめる週間にちなんで、特集コーナーを設けています。ぜひ一度読んでみませんか?

#### ●ボランティア募集!!

つしま図書館では、随時ボランティアさんの募集を行っています。興味のある方は、ぜひカウンターまでお願いします。

### 6月の休館日

休館日

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

### 今月のおすすめ新着本

一般書	<p>『欠落』 今野 敏/著</p> <p>同期の女刑事が立てこもり事件の人質に。警視庁捜査一課刑事の宇田川は殺人事件を追いながらも、彼女の行方が気になる。そんな折、元同期の蘇我から連絡が入り…。『同期』シリーズ第2弾。『小説現代』連載を単行本化。</p>	<p>『はじめての家づくり No.20』 主婦の友社/編</p> <p>予算内で実現した、インテリアも暮らしやすさも大満足の心地いい家を集。そのほか、DIY&amp;建主参加の家づくり、キッチン・ダイニング中心の家などを豊富な事例で紹介する。</p>	<p>『部活魂!』 岩波書店編集部/編</p> <p>「私の学校の部活自慢!」というテーマで募集した、全国の中学生や高校生の作品を取録。夢や努力、喜び、挫折、仲間など、10代のさまざまな思いが込められた「部活魂」を紹介する。</p>
	<p>『赤いマントをほどいた日』 香山 美子/著</p> <p>まほうをかけるのにあきてしまった、まほうつかいのおばあさんは、まほうをとく、おばあさんになってみました。どんだまほうをといていくと、まあびつくり。いえの中はみんな、まほうをかけられていたのです。小学校1・2年生から。</p>	<p>『心をケアする絵本 1~5巻』 ベス・アンドリュース/著</p> <p>第1巻:閉じかけた子どもの心をノックする。親がうつ病にかかったら、子どもはどんな気持ちになるのでしょうか。第2巻:親の離婚は、子どもになんらかのダメージをあたえます。子どもの心の変化を追いながら、子どもへの接し方、気持ちの受け止め方を描きます。他3巻</p>	<p>『ちゅうしゃなんかこわくない』 穂高 順也/著</p> <p>ちゅうしゃはいたい。ちゅうしゃはこわい。ちゅうしゃなんかだいきらい。「いますぐ、ここからにげだしたい」というぼくのきもちを「にゅつ」とからだからぬげだした。注射がらいが治る(?)絵本。穂高順也&amp;長谷川義史のミラクルコンビがおくるホンワカ爆笑ファンタジー。</p>